

Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度	2026年度	開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科		子ども教育学科		
科目名称	子ども教育専門ゼミⅠ						授業形態		演習	
科目コード	750114	単位数	2単位	配当学年	3	実務経験教員		○	アクティブ ラーニング	○
担当教員名	河野 康男								ICT活 用	
授業概要	ここでは、算数科の学習内容について、子どもの目線から学びをとらえ直し、「わかる」授業を構築するための教員の数学的リテラシーの育成を目指したゼミとする。そのため、算数科における子どもがもっている考えや思いなどを明らかにしながら、学習する際のつまずきや困難さに目を向け、教えるべき基礎的な概念の意味を子どもが深く理解できるようにするための教授介入はどうあればよいかについて文献をもとに調べ、発表し、討論することをとおして、課題解決能力を高めていく。									
関連する科目	履修後は、子ども教育専門ゼミⅡを受講することが望ましい。									
授業の進め方 と方法	文献調査から課題を見つけ、調査したことをもとにディスカッションを重ね、解決方法を検討する。									
授業計画 【第1回】	オリエンテーション 本ゼミの内容についての課題の共有									
授業計画 【第2回】	問題意識と関心に基づいた文献の選択 文献選択の視点等について									
授業計画 【第3回】	報告と討論（１） 子どものつまずきと数学的概念の形成との関係について（１）									
授業計画 【第4回】	報告と討論（２） 子どものつまずきと数学的概念の形成との関係について（２）									
授業計画 【第5回】	報告と討論（３） 子どものつまずきと数学的概念の形成との関係について（３）									
授業計画 【第6回】	報告と討論（４） 子どものつまずきと数学的概念の形成との関係について（４）									
授業計画 【第7回】	報告と討論（５） 子どものつまずきと数学的概念の形成との関係について（５）									
授業計画 【第8回】	中間まとめ 自己の気づきの振り返り									
授業計画 【第9回】	各自の問題関心の確認 自己の気づきの振り返りと変化の確認									
授業計画 【第10回】	各自の問題関心に基づいた教材の作成（１） 数学的概念の形成につながる教材の作成のための準備（１）									

授業計画 【第11回】	各自の問題関心に基づいた教材の作成（２） 数学的概念の形成につながる教材の作成のための準備（２）
授業計画 【第12回】	各自の問題関心に基づいた教材の作成（３） 数学的概念の形成につながる教材の作成について（１）
授業計画 【第13回】	各自の問題関心に基づいた教材の作成（４） 数学的概念の形成につながる教材の作成について（２）
授業計画 【第14回】	今後の研究に向けて（１） 討論と省察（１）
授業計画 【第15回】	今後の研究に向けて（２） 討論と省察（２）
授業の到達目標	1 文献や資料を丁寧に調べ、レジュメとして整理し、報告し討論を重ねることにより、質の高い教材を作成するための、教員としての数学リテラシーを身に付ける。【数学リテラシー】 2 二年次までに身に付けた発表や討論の仕方を確実なものにしていく。【問題解決力】
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2) / 2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2)
授業時間外学習【予習】	問題意識と関心に基づいて調べ、資料をまとめて授業に臨む。
授業時間外学習【復習】	自己の学び・考え・リフレクションをレポートにまとめる。
課題に対する フィードバック	討論や文献・情報収集への取り組み、ゼミの発表や教材の作成時に、形勢的評価を行いアドバイスをする。
評価方法・基準	討論や文献・情報収集への取り組み、ゼミの発表や教材の作成、その実践等で総合的に評価する。
テキスト	第１・２回でゼミ参加者全員で輪読文献を話し合いによって決定する。
参考書	必要に応じて、関連文献をその都度紹介する。 小学校学習指導要領（算数編） 小学校教科書（算数） 黒木哲徳著『なっとくする数学記号』 講談社『入門算数学』日本評論社
備考	

Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度	2026年度	開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科		子ども教育学科		
科目名称	子ども教育専門ゼミⅠ						授業形態		演習	
科目コード	750114	単位数	2単位	配当学年	3	実務経験教員		○	アクティブ ラーニング	○
担当教員名	吉田 健								ICT活 用	
授業概要	この授業は、研究に関する手法を知り、プレゼンテーション能力の向上やクリティカル思考の習得を目指し、課題探究能力の向上をはかるとともに卒業研究の準備をすることが目的です。 特に図画工作に関する課題について、学生各自が自分のテーマを決め、それに関する文献や資料を収集、または作成してまとめ、発表・討論を行います。 講師は、中学校教諭と美術館職員として子供向け美術教室等に長年取り組んできた経験があります。このことを、学生が設定する子どもの造形活動に関する課題解決指導に生かして、本授業の学修が深められるようにします。									
関連する科目	入門ゼミ、プレゼミを踏まえて、自分の研究テーマを明確にする。 4年時に専門ゼミⅡを履修する。									
授業の進め方 と方法	卒業研究に向けて、テーマに沿ったレジメを担当者が準備し、プレゼンをして、全員で議論をする。 各自のテーマを明確にし、先行研究を基に、卒論執筆の準備段階とする。 個人で進めていく部分が大半になるが、ゼミ内での進捗状況を確認し合いながら、グループでの討議も併用する。 仲間からの意見も聞ける状況を設定する。 アンケート類の必要性があれば確実に実施していく。 基礎的な資料収集を徹底して行う。情報収集においてICT活用を推進する。									
授業計画 【第1回】	オリエンテーション 自己紹介、ゼミ内のコミュニケーションを図る。3年時の1年間の流れについて確認する。									
授業計画 【第2回】	第課題設定：教育の現状と課題調査(1) テーマ選択の重要性を説く。先行研究を探る。									
授業計画 【第3回】	課題設定：課題調査(2) テーマに沿った資料収集を計画的に進める。									
授業計画 【第4回】	報告と討論：調査の現状と課題について報告(1)									
授業計画 【第5回】	報告と討論：調査の現状と課題について報告(2) 個人の方向をゼミ間で共有する。									
授業計画 【第6回】	報告と討論：教育の現状と課題について報告(3) 個人テーマを掘り下げる									
授業計画 【第7回】	中間まとめ 前期までの取り組みをまとめる、ゼミ内で中間発表する。									
授業計画 【第8回】	各自の問題意識・関心の確認 調査の進捗状況を確認する。									
授業計画 【第9回】	各自の関心に基づいた課題設定(1) 本人のテーマ、調査、考察を進める。									
授業計画 【第10回】	各自の関心に基づいた課題設定(2) 卒論の主題となる構造を作る。									

授業計画 【第11回】	先行研究や基礎文献の情報収集 論旨を明確にしていく。
授業計画 【第12回】	先行研究や基礎文献の整理 資料の確認、追調査。
授業計画 【第13回】	各自の課題に沿った報告と質疑応答(1) 方向性と内容を最終的に確認する。
授業計画 【第14回】	各自の課題に沿った報告と質疑応答(2) 各自のテーマに沿った記述を点検する。
授業計画 【第15回】	各自の課題に沿った報告とまとめ。 方向性を明確にし、次年度へ向けた取り組みの意思を固める。
授業の到達目標	文献や資料を丁寧に読み、レジュメとして整理し、報告することについて一連の流れを身につける。また、2年次までに身に付けた文献の読み方、発表や討論の在り方、レポートのまとめ方等（Power Point）の力を生かし、事実に応じて自らの頭で考える力をつける。
学位授与の方針 （DP）との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(5)
授業時間外学習【予習】	毎回の終了後に、内容を振り返り、内容に関連して自分が考えたことをまとめ、文章として表現するレポートを課す。また、終了時に提示される課題について、次回の講義までに準備をしてくる。課題については担当教員に随時相談すること。（1時間程度）
授業時間外学習【復習】	毎回終了後に、内容を振り返り、内容に関連して自分が考えたことをまとめ、文章として表現するレポートを課す。また、終了時に提示される課題について、次回の講義までに準備をしてくる。課題については担当教員に随時相談すること。（1時間程度）
課題に対する フィードバック	課題については、ゼミの中で解説、論証する。
評価方法・基準	討論や文献・情報収集への取り組み姿勢・態度およびレポートや報告の内容等で評価する。 なお、レポートについては、講義内容をまとめた状態を最低限のレベルとし、理解に基づく活用、さらに応用といった、知識を基にして、様々なことと関連づけて思考・判断したことが表現できているかどうかを評価する。
テキスト	とくに定めず、必要に応じて資料を配布する。
参考書	自分の課題に応じた資料、情報、参考書の収集を行う。
備考	

Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度	2026年度	開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科		子ども教育学科			
科目名称	子ども教育専門ゼミⅠ							授業形態		演習	
科目コード	750114	単位数	2単位	配当学年	3	実務経験教員		○	アクティブ ラーニング	○	
担当教員名	後藤 吉道									ICT活 用	○
授業概要	「子ども教育専門ゼミⅡ」「卒業研究」に向けた準備段階として、自らの関心や問題意識を明確にし、研究方法を知る。 ①自身の関心・問題意識を明らかにし、②文献を収集・読解、③レポートを作成、④発表と対話、を通して、課題探求能力を高める。										
関連する科目	子ども教育専門ゼミⅡ、入門ゼミ、プレゼミ										
授業の進め方 と方法	①自身の関心・問題意識を明らかにする。 ②先行研究の収集と整理を行う。 ③人間形成論に関わる文献を講読し、その内容を正確に理解しレポートにまとめる。 ④レポートの発表を通して、自身の研究内容を著者の見解と比較・検討する。										
授業計画 【第1回】	オリエンテーション										
授業計画 【第2回】	自分の関心・問題意識を明らかにする。(1)										
授業計画 【第3回】	自分の関心・問題意識を明らかにする。(2)										
授業計画 【第4回】	自分の関心・問題意識を明らかにする。(3)										
授業計画 【第5回】	先行研究の収集・整理(1)										
授業計画 【第6回】	先行研究の収集・整理(2)										
授業計画 【第7回】	先行研究の収集・整理(3)										
授業計画 【第8回】	自分の関心・問題意識の再確認と修正(1)										
授業計画 【第9回】	自分の関心・問題意識の再確認と修正(2)										
授業計画 【第10回】	テキストの講読とレジュメの検討(1)										

授業計画 【第11回】	テキストの講読とレジュメの検討(2)
授業計画 【第12回】	テキストの講読とレジュメの検討(3)
授業計画 【第13回】	テキストの講読とレジュメの検討(4)
授業計画 【第14回】	テキストの講読とレジュメの検討(5)
授業計画 【第15回】	テキストの講読とレジュメの検討(6)
授業の到達目標	1. 先行研究の収集とその整理の方法について理解することができる。 2. 研究テーマを設定し、正確にテキストの読解ができる。 3. レポート作成、発表と討論の方法について理解することができる。
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(2)
授業時間外学習【予習】	〈予習〉 自身の関心・問題意識はどこにあるのかをに常に意識しながらテキストを探し、読む。
授業時間外学習【復習】	〈復習〉 ゼミの内容をふり返り、課題に対する探究を深める。
課題に対する フィードバック	毎回の授業でコメントする。
評価方法・基準	①発表資料（レジュメ） ②参加態度（発言）
テキスト	なし
参考書	それぞれのテーマにあわせて適宜紹介する。
備考	なし

Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度	2026年度	開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科		子ども教育学科		
科目名称	子ども教育専門ゼミⅠ						授業形態		演習	
科目コード	750114	単位数	2単位	配当学年	3	実務経験教員			アクティブ ラーニング	○
担当教員名	早川 純子								ICT活 用	
授業概要	この演習では、専門分野の文献の読解を通して学術論文の論述形式を習得するとともに、課題探求能力を高めながら最終的に具体的な卒業研究のテーマを見出すことを目的とする。 前期では、音楽教育に関する英語論文の輪読を行って、専門分野の知見を得るとともに英語のリーディングスキルを向上させる。 後期は、まず研究論文レビューを一人2回行う。専門知識及び4年次の卒業研究に役立つアイデアや知見を得ることを目的とする。 研究論文は、『全国大学音楽教育学会 研究紀要』および『音楽教育学』等の学会誌、また各自で関心のあるテーマで文献検索サイトから選び、所定の形式に基づいてレジュメを作成して発表する。発表に基づく討議を通して、問題を多様な視点から捉え明確化し、問題解決の方法を検討していく。以上のことを通して、問題設定の仕方、議論の進め方、音楽素材の実証的で多面的な分析の方法を習得する。最後の2回で、卒業研究の研究テーマ・キーワード・文献表・アブストラクト・章立てを考えて発表し、執筆に入る前の研究計画を立てる。また、適宜楽器演奏のレッスンも行う。									
関連する科目	1年次に「子ども育入門ゼミ」を、2年次に「子ども教育プレゼミ」を履修しておくこと。									
授業の進め方 と方法	各回のテーマに関する課題の評価及び指導を「演習形式」で行う。 毎回、課題の提示・発表・提出を行い、参加者全員でのディスカッションを行う。									
授業計画 【第1回】	英語文献講読① 近代以降の日本の音楽教育史の概観									
授業計画 【第2回】	英語文献講読② 前近代でと近代の「音楽教育史」的断絶									
授業計画 【第3回】	英語文献講読③ 封建社会と民主主義社会での音楽教育のあり方									
授業計画 【第4回】	楽器演奏レッスン ピアノを中心とした楽器演奏の技術を向上させる									
授業計画 【第5回】	英語文献講読④ 音楽教育改革についての事例研究									
授業計画 【第6回】	英語文献講読⑤ 日本音楽に関する音楽教育史の推移									
授業計画 【第7回】	英語文献講読⑥ 日本の音楽科教育に関する成果と課題について理解する									
授業計画 【第8回】	学術論文レビュー① 各自で選択した論文について批評的読解を行い、全員でディスカッションを行う									
授業計画 【第9回】	4年生 卒業研究中間発表参加 様々なテーマやアプローチの方法を知り、卒業研究のテーマの参考にする									
授業計画 【第10回】	学術論文レビュー② 各自で選択した論文について批評的読解を行い、全員でディスカッションを行う									

授業計画 【第11回】	学術論文レビュー③ 各自で選択した論文について批評的読解を行い、全員でディスカッションを行う
授業計画 【第12回】	学術論文レビュー④ 文献レビューを通して様々なテーマやアプローチを知り、卒業研究のテーマを絞っていく
授業計画 【第13回】	4年生 卒業研究審査会参加 様々なテーマやアプローチを知り、卒業研究のテーマを絞っていく
授業計画 【第14回】	卒業研究テーマ・キーワード・文献表 発表 研究計画を立てるための準備を行う
授業計画 【第15回】	卒業研究アブストラクト・章立て 発表 4年次にすぐ文献調査および執筆ができるよう、卒業研究の計画を立てる
授業の到達目標	1. 文献講読に習熟する。 2. 問題設定と課題探求の方法に習熟する。 3. 楽曲分析とフィールドワークの手法を習得する。 4. プレゼンテーションスキルを向上させる。
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(1)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(3)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(4)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(5)
授業時間外学習【予習】	発表の際は、レジュメを作成するだけでなく質疑応答にも十分に対応するために、対象論文を入念に読み込み理解して臨む必要がある。準備には十分な時間を確保すること。(2時間程度)
授業時間外学習【復習】	卒業研究のテーマを設定するにあたっては、その分野に関する参考文献を調べ、研究に必要な知識を習得する。自分の研究テーマに対する理解を深め、アイデアを得るためには、積極的に文献検索を行い、読む習慣を身につけること。(1時間程度)
課題に対する フィードバック	提出課題は、授業時間に評価・解説を行う。
評価方法・基準	参加態度：60%、発表：40%
テキスト	講読、レビューする文献は随時配布する。
参考書	随時提示する。
備考	

Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度	2026年度	開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科		子ども教育学科		
科目名称	子ども教育専門ゼミⅠ						授業形態		演習	
科目コード	750114	単位数	2単位	配当学年	3	実務経験教員		○	アクティブ ラーニング	○
担当教員名	宮内 孝								ICT活 用	○
授業概要	この授業は、これらを通して研究に関する手法を身につけるとともに、プレゼンテーション能力の向上やクリティカル思考の習得を目指していくなかで課題探究能力の向上をはかるとともに卒業研究の準備をすることが目的です。 子どもの運動に関する課題について、それぞれの学生がテーマを決め、それに見合った文献や資料を収集してまとめ、発表・討論を行います。 授業者は、小学校教諭として体育授業に取り組んできました。この実践を通して得た知見を、学生が設定する子どもの運動に関する課題解決指導に活用して、本授業の学修が深められるようにします。									
関連する科目	子ども教育プレゼミ									
授業の進め方 と方法	運動指導理論や具体例について、実技も交えながら討論します。その後は興味のあるテーマを設定して、そのテーマについてのレポート作成するための討論を行います。また、チャレンジ運動教室での指導計画・実践・振り返りと関連付けながら、授業を行います。									
授業計画 【第1回】	1. 子どもの運動の発達 子どもの誕生から歩くまでの心身の発達、それからの子どもの運動習得について、グループワークを用いて学びます。									
授業計画 【第2回】	2. 運動指導理論 運動構造 準備局面、主要局面、終末局面の3つの運動局面について、具体例をもとにグループワークを用いて学びます。									
授業計画 【第3回】	3. 運動指導理論 運動習熟過程 運動の習熟位相について、具体例をもとにグループワークを用いて学びます。									
授業計画 【第4回】	4. 運動指導具体例 器械運動 マット運動 マット運動の技ができない児童のつまずきの例を取り上げて、 グループワークを用いてその指導法について学びます。									
授業計画 【第5回】	5. 運動指導具体例 鉄棒・跳び箱運動 鉄棒運動の、跳び箱運動の技ができない児童のつまずきの例を取り上げて、 グループワークを用いてその指導法について学びま す。									
授業計画 【第6回】	6. 運動指導具体例 陸上運動 陸上運動の走って跳ぶの運動組み合わせや投げる動きが上手くできない児童のつまずきの例を取り上げて、 グループワークを用 いてその指導法について学びます。									
授業計画 【第7回】	7. 運動指導具体例 ボール運動 ゴール型 ゴール型の状況判断が上手くできない児童のつまずきの例を取り上げて、 グループワークを用いてその指導法について学びます。									
授業計画 【第8回】	8. 運動指導具体例 ボール運動 ネット型 ネット型の状況判断が上手くできない児童のつまずきの例を取り上げて、 グループワークを用いてその指導法について学びます。									
授業計画 【第9回】	9. 運動指導具体例 ボール運動 ベースボール型 ベース型の状況判断が上手くできない児童のつまずきの例を取り上げて、 グループワークを用いてその指導法について学びます。									
授業計画 【第10回】	10. 運動指導具体例 水泳 クロール クロールの動きが上手くできない児童のつまずきの例を取り上げて、 グループワークを用いてその指導法について学びます。									

授業計画 【第11回】	11. 卒運動指導具体例 水泳 平泳ぎ・背泳ぎ 平泳ぎ・背泳ぎが上手くできない児童のつまずきの例を取り上げて、 グループワークを用いてその指導法について学びます。
授業計画 【第12回】	12. 各自の問題関心に基づいた課題設定
授業計画 【第13回】	13. 各自の問題関心に基づいた課題についての協議
授業計画 【第14回】	14. 各自の課題に沿った報告と質疑応答(1)
授業計画 【第15回】	15. 各自の課題に沿った報告と質疑応答(2)
授業の到達目標	1. 運動指導の概観を理解し、その理論に基づいた教材と指導ができる。 2. 文献や資料を丁寧に読み、レジュメとして整理し、報告できる。 3. 自己の課題を設定して、引用を用いながらレポートにまとめることができる。
学位授与の方針 (DP)との関連	1.知識・理解を応用し活用する能力-(1)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(3)
授業時間外学習【予習】	授業前には、各自のゼミ研究に取り組むための文献・先行実践についてレジュメ・発表のためのプレゼンを作成します。
授業時間外学習【復習】	授業後は、自己の学びをレポートにまとめます。
課題に対する フィードバック	提出課題は、授業時間に評価・解説を行います。
評価方法・基準	レジュメ 30点 レポート30点 プレゼンテーション 40点
テキスト	三木四郎「新しい体育授業の運動学」 明和出版 2008 (2000円＋税) 白石豊・広瀬仁美「どの子ものびる運動神経」 かもがわ出版 2009 (1900円＋税)
参考書	必要に応じて資料を配付します。
備考	

Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度	2026年度	開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科		子ども教育学科		
科目名称	子ども教育専門ゼミⅠ						授業形態		講義・演習	
科目コード	750114	単位数	2単位	配当学年	3	実務経験教員		○	アクティブ ラーニング	○
担当教員名	神垣 彬子								ICT活 用	○
授業概要	「子ども教育専門ゼミⅡ」「卒業研究」に向けた準備段階として、自身の関心や問題意識を明確にし、研究方法を知ることを目指す。 2年生までに学んだ専門的知識やボランティア活動等で得た経験をもとに、保育・教育場面に関連する心理学の知識の自主的な学びを深めることをテーマとし、基礎的な知識をいかに現実場面に応用させていくかについて考察することをテーマとする。 課題設定、文献の収集および整理と分析、レジュメ作成、発表、メンバー間でのディスカッションを通して、課題探求力の向上を図る。その上で、最終課題としてのレポートをまとめる。 公立小・中学校でスクールカウンセラーの経験があり、また、保育、療育の現場での実務経験を有する教員が実際の事例検討等を交えた授業を行う。									
関連する科目	履修の次年度に「子ども教育専門ゼミⅡ」および「卒業研究」を履修する。									
授業の進め方 と方法	演習形式の授業を行う。 各授業の前半は、課題に対する自身の考えを資料およびプレゼンテーションを用いて発表する。【知識・理解の獲得】 各授業の後半は、グループディスカッション等を行い、自身の問題意識と客観的な意識とを比較検討し、より具体的な自身の主張を精査する。【汎用的技能の育成】【態度・志向性の育成】 講義資料の提示・課題の提出は、ユニバのクラスプロファイル上で行う。									
授業計画 【第1回】	第1回 子ども教育専門ゼミⅠの目的 本ゼミが大学での学びにおいてどのような位置づけにあるのかについて確認する									
授業計画 【第2回】	第2回 自身の興味・関心、問題意識を知る これまでに学んだ専門知識や経験をもとに自身の関心や問題意識について考える									
授業計画 【第3回】	第3回 文献紹介 自身の関心や問題意識に関する文献を収集し紹介する									
授業計画 【第4回】	第4回 課題の設定 1：テーマの仮設定 自身の関心や問題意識をもとに問いをたてる									
授業計画 【第5回】	第5回 文献の内容及び構造を読む ①概略的な知識を得る 自身の問いに関する図書や論文を収集して概略的な知識を得るとともに論文の構造を分析する									
授業計画 【第6回】	第6回 文献の内容及び構造を読む ②文献入手、構造の読み取り 自身の問いに関する図書や論文を収集して概略的な知識を得るとともに論文の構造を分析する									
授業計画 【第7回】	第7回 文献の内容及び構造を読む ③構造の可視化 自身の問いに関する図書や論文を収集して概略的な知識を得るとともに論文の構造を分析する									
授業計画 【第8回】	第8回 課題の設定2：テーマの焦点化 自身の関心や問題意識をもとに自身の研究課題を決定する。									
授業計画 【第9回】	第9回 研究計画を立てる（レジュメ作成、発表及び討論） これまでの学びをもとに問いを焦点化し研究計画を立てる									
授業計画 【第10回】	第10回 先行研究を収集し、整理する ①体系的でまとまった情報収集 「広く調べること」と「論点を絞り込むこと」を繰り返し自身の主張を明確にする									

授業計画 【第11回】	第11回 先行研究を収集し、整理する ②資料の読み込み 「広く調べること」と「論点を絞り込むこと」を繰り返し自身の主張を明確にする
授業計画 【第12回】	第12回 調査・分析 ①構造の組み立て、アウトライン作成 調べた情報や自身の知識をもとにレポートの構造を組み立てて執筆する
授業計画 【第13回】	第13回 調査・分析 ②本文執筆 調べた情報や自身の知識をもとにレポートの構造を組み立てて執筆する
授業計画 【第14回】	第14回 最終報告 ①意見交換 レポートを資料としてプレゼンテーションを行い自身の主張を表現する ディスカッションを通して論点を整理する
授業計画 【第15回】	第15回 最終報告 ②まとめ レポートを資料としてプレゼンテーションを行い自身の主張を表現する ディスカッションを通して論点を整理する
授業の到達目標	1. 文献の内容及び構造を読み取ることができる。 2. 先行研究の収集とその整理の方法について理解することができる。 3. レジューメ作成、発表と討論の方法について理解することができる。【知識・技能の育成】 4. 先行研究の収集と整理、調査と分析、レポート作成、発表及び討論を通し、自身の問題意識を深めることができる。 【汎用的技能の育成】【態度・志向性の育成】
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(1)
授業時間外学習【予習】	課題に取り組むにあたり、予め自身の興味・関心や問題意識に関する情報や資料等を収集しまとめておく。前回のゼミから次回のゼミまでの間に、最低でも5時間は予習に費やす時間を設ける（30分程度）。
授業時間外学習【復習】	授業後に自身の学びを振り返り、論点を整理し、次回の授業に生かすことができるようノートにまとめておく。前回のゼミから次回のゼミまでの間に、最低でも5時間は復習に費やす時間を設ける（30分程度）。
課題に対する フィードバック	毎回のレジューメについては授業時にコメントする。最終レポートについては、評価後、返却し解説する。
評価方法・基準	学習への意欲的な取り組み（レジューメ作成の内容及び発表・討論への参加状況等）50点 最終レポート 50点
テキスト	適宜紹介する。
参考書	適宜紹介する。
備考	

Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度	2026年度	開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科		子ども教育学科		
科目名称	子ども教育専門ゼミⅠ						授業形態		演習	
科目コード	750114	単位数	2単位	配当学年	3	実務経験教員			アクティブ ラーニング	○
担当教員名	西田 雅美								ICT活 用	○
授業概要	本授業の目的は、保育・幼児教育についていろいろな視点から資料を収集し、プレゼンテーションすることを通して、卒業研究の準備につなげていくことである。 幼児期の教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要な時期であると言われており、この重要な時期にかかわる保育者として、子どもの成長にかかわる中でどのような支援・援助が必要かについて考え、保育者の専門性について理解を深めていく。また、小学校教育との円滑な接続のためにも、子どもの成長を連続的にとらえ、よりよい教育を創造するため、乳幼児の発達についても理解を深めていくことが求められる。 そのために授業では、保育に対する各自の興味関心を基に資料を収集し、課題に取り組み、議論を通して学びを深めていく。									
関連する科目	「子ども教育プレゼミ」を事前に履修しておくこと。履修後は「子ども教育専門ゼミⅡ」を履修すること。									
授業の進め方 と方法	毎回の授業にて、演習形式の授業を展開する。一回の授業構成は以下の通りである。 授業の前半は、各自の興味関心に沿った内容に関して取り組んできた課題に対してプレゼンテーションを行う。後半は、各自のプレゼンテーション内容に対して全員で議論を行い、保育について多角的に考察できる力の育成を目指す。 最後に各自の課題に対して評価を行い、次回の課題を提示する。 情報収集や分析においてはICTを活用、課題等の提出については学内ツール（ユニバ・classroom）等を利用する。									
授業計画 【第1回】	オリエンテーション（授業概要説明） 授業の進め方について理解し、各自の興味関心を探る。									
授業計画 【第2回】	各自の関心や問題意識についての確認 各自の興味関心や問題意識についてまとめたものを発表する。									
授業計画 【第3回】	課題に対する文献検索方法 各自の課題に沿った文献の検索方法について学ぶ。									
授業計画 【第4回】	先行研究の調査・まとめ 各自の課題に沿った論文を検索し、まとめたものを基に議論を行う。									
授業計画 【第5回】	発表・討論内容の検討 討論内容を検討する。									
授業計画 【第6回】	発表・討論 調査したことについて討論を行い、理解を深める。									
授業計画 【第7回】	中間まとめ 保育におけるこれまでの内容を考察し、今後の計画を立てる。									
授業計画 【第8回】	各自の課題決定 卒業研究に向けた各自の課題を整理する。									
授業計画 【第9回】	各自の課題に沿った情報収集（自己収集） 各自の課題に沿った論文・文献を検索し、紹介する。									
授業計画 【第10回】	各自の課題に沿った情報収集（再検討） 各自で収集した資料を基に、卒業研究のテーマについて再考する。									

授業計画 【第11回】	各自の課題の調査報告（図書館資料の収集） 各自の課題に沿った資料を収集し、レポートにまとめていく。
授業計画 【第12回】	各自の課題の調査報告（論文資料の収集） 各自の課題に沿った資料を収集し、レポートにまとめていく。
授業計画 【第13回】	各自の課題の調査報告（新聞・雑誌等の資料収集） 各自の課題に沿った資料を収集し、レポートにまとめていく。
授業計画 【第14回】	各自の課題の調査報告から見える新たな課題設定 作成したレポートを報告し、新たな課題を設定する。
授業計画 【第15回】	まとめ 卒業研究のテーマを決定する。
授業の到達目標	1. 保育者の専門性について理解する 2. 自らの課題に対する文献・資料・情報などを収集する能力を身に付ける 3. プレゼンテーション力を高める
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(5)
授業時間外学習【予習】	指定されたテーマに沿った内容の文献・資料の収集と、授業内で発表できるようにまとめておくこと（約1時間）
授業時間外学習【復習】	授業内容を振り返り、必要に応じて新たな文献・資料を収集してまとめることと、次回の課題に積極的に取り組むこと（約1時間）
課題に対する フィードバック	各自の発表後に評価を行う
評価方法・基準	以下の項目に基づいて評価する。 1) 授業への積極的な取り組み（60点） 2) 課題提出（40点）
テキスト	必要に応じて適宜紹介する。
参考書	必要に応じて適宜紹介する。
備考	

Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度	2026年度	開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科		子ども教育学科		
科目名称	子ども教育専門ゼミⅠ						授業形態		講義	
科目コード	750114	単位数	2単位	配当学年	3	実務経験教員			アクティブ ラーニング	○
担当教員名	石本 隆士								ICT活 用	
授業概要	本授業は、特別支援教育・保育を専門的に研究していくための基礎的な力を養うことを目的としています。 文献や資料の収集や整理などを通して、情報活用方法を学びます。 また、研究テーマに沿った先行文献と出会い、要旨まとめ、質疑応答を通して、研究テーマを探究する力を学びます。 学生自ら課題を発見し、研究テーマに沿った課題の解決に向けて、調査および文献研究を進め、さらに探究する力を養います。									
関連する科目	事前に、子ども教育プレゼミを履修しておくこと									
授業の進め方 と方法	基本的に、演習形式の授業を展開します。前半は、各自の関心のある研究テーマに沿った課題として出された先行文献等の要旨のまとめを行い、全体で発表し、質疑応答を通して、多角的に考察する力を養います。									
授業計画 【第1回】	オリエンテーション（自己紹介および研究の方向性の確認）									
授業計画 【第2回】	各自の研究テーマの要旨発表および質疑応答									
授業計画 【第3回】	各自の研究テーマに沿った課題文献検討									
授業計画 【第4回】	各自の課題文献の要旨まとめと質疑応答①									
授業計画 【第5回】	各自の課題文献の要旨まとめと質疑応答②									
授業計画 【第6回】	各自の課題文献の要旨まとめと質疑応答③									
授業計画 【第7回】	各自の課題文献の要旨まとめと質疑応答④									
授業計画 【第8回】	中間まとめ									
授業計画 【第9回】	各自の研究テーマの再確認									
授業計画 【第10回】	各自の研究テーマに基づいた課題設定①									

授業計画 【第11回】	各自の研究テーマに基づいた課題設定②
授業計画 【第12回】	先行研究や先行文献の収集および整理
授業計画 【第13回】	先行研究や先行文献の収集および整理
授業計画 【第14回】	各自の研究テーマに沿った報告と質疑応答①
授業計画 【第15回】	各自の研究テーマに沿った報告と質疑応答②
授業の到達目標	先行文献等を丁寧に読み、要旨をまとめ、報告することで、論文作成の一連の流れを学びます。また、2年次までに身に付けた文献の読み方、発表や討論の仕方、レポートのまとめ方等の力を生かし、事実に基づいて自発的に探究する力を付けます。
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(5)
授業時間外学習【予習】	各自、発表の際は、要旨の作成に加え質疑応答に対応するため、課題先行論文等を熟読玩味して臨むこととします。また、興味関心のある研究テーマを設定し、課題と出会うために、自ら率先して論文を読み深めていくようにします。(1時間程度)
授業時間外学習【復習】	発表等の反省やアドバイスを踏まえ、研究テーマの再設定、研究内容、方法の内容のあり方を精査していくようにしてください。(1時間程度)
課題に対する フィードバック	提出課題は、授業時間に評価・解説を行います。
評価方法・基準	討論や文献・情報収集への取り組みや発表などを総合的に評価します。
テキスト	特にありません。
参考書	必要に応じて図書、資料などを紹介します。
備考	

Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度	2026年度	開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科		子ども教育学科		
科目名称	子ども教育専門ゼミⅠ						授業形態		演習	
科目コード	750114	単位数	2単位	配当学年	3	実務経験教員		○	アクティブ ラーニング	○
担当教員名	渡邊 光浩								ICT活 用	○
授業概要	本授業は、主に小学校教育を教育工学の観点から研究していくための基礎的な力を養うことを目的とする。 情報の収集・整理・分析・まとめ・表現を通して、情報を活用する方法を学ぶ。 研究テーマに沿った先行文献の調査やまとめ、発表、ディスカッションを通して、テーマを探究する方法を学ぶ。 さらに、自らのテーマに沿った課題を発見し、その課題の解決に向けて、調査・分析を進め、さらに探究する力を養う。 実務経験教員として、研究課題の意義や研究方法、成果と学校現場での実践の関連等を解説する。									
関連する科目	前年度に子ども教育入門ゼミを、次年度に子ども教育専門ゼミⅡを履修すること。									
授業の進め方 と方法	基本的に、演習形式で授業を展開する。 科目の前半は、各自の関心のある研究テーマに沿って課題として出された先行文献のまとめを行い、全体で発表し、ディスカッションを通して、多角的に考察する力を養う。 科目の後半は、自らのテーマに沿った課題を発見し、その課題の解決に向けて、調査・分析を進め、まとめて全体で発表し、ディスカッションを通して、成果と課題を明らかにする。 先行研究や自分の研究についてスライドにまとめ、データを共有した上で、プレゼンテーションを行う。また、授業支援システムを用いて、リフレクションを行い、共有する。									
授業計画 【第1回】	オリエンテーション（自己紹介と研究の方向性の確認）									
授業計画 【第2回】	研究テーマの要旨発表とディスカッション									
授業計画 【第3回】	研究テーマに沿った先行文献の検討									
授業計画 【第4回】	先行文献のまとめとディスカッション①									
授業計画 【第5回】	先行文献のまとめとディスカッション②									
授業計画 【第6回】	先行文献のまとめとディスカッション③									
授業計画 【第7回】	先行文献のまとめとディスカッション④									
授業計画 【第8回】	中間まとめ									
授業計画 【第9回】	研究テーマの再確認									
授業計画 【第10回】	研究テーマに基づいた課題の設定									

授業計画 【第11回】	先行文献の調査
授業計画 【第12回】	課題に沿った調査・分析①
授業計画 【第13回】	課題に沿った調査・分析②
授業計画 【第14回】	課題に沿った報告とディスカッション①
授業計画 【第15回】	課題に沿った報告とディスカッション②
授業の到達目標	1. 教育工学に関する文献の内容を、他者にも分かるようにまとめ、発表できる。 2. 課題やその調査方法について、先行研究との異同を説明することができる。 3. 自らの研究について、問題と目的、方法、結果、考察の適切な構成で発表できる。 4. ほかの学生の研究について、質問をしたり、意見を述べたりすることができる。
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(4)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(5)
授業時間外学習【予習】	先行研究を熟読してまとめたり、自分の研究について整理したりして、授業で必要な資料を作成し、発表する準備を行うこと（2.5時間）
授業時間外学習【復習】	自分の発表やディスカッションの振り返りや、他者の発表やディスカッションからの学びをリフレクションすること（2時間）
課題に対する フィードバック	毎回の課題（発表やりフレクション）は、授業時間に評価・解説を行う。
評価方法・基準	毎回の発表（50％）・振り返り（30％）・ディスカッションへの参加（20％）で総合的に判断する。
テキスト	特になし
参考書	必要に応じて文献や資料を紹介する。
備考	

Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度	2026年度	開講キャンパス	都城キャンパス	開設学科	子ども教育学科				
科目名称	子ども教育専門ゼミⅠ					授業形態	演習		
科目コード	750114	単位数	2単位	配当学年	3	実務経験教員		アクティブ ラーニング	○
担当教員名	藤本 朋美							ICT活 用	○
授業概要	この授業の目的は、「子ども教育専門ゼミⅡ」「卒業研究」に向けた準備段階として、自身の関心や問題意識を明確にし、研究方法を知ることです。 これまで学んできた専門的知識やボランティア活動等で得た経験をもとに、特に幼児や児童のことばや文字、伝え合うこと等をテーマとして、自身の問題意識とそれに対する自身の立場を明確にします。 自身の問題意識を手がかりに①課題設定、②文献の収集・整理と分析、③レジュメ作成、④発表、⑤メンバー間での討論を通して、課題探求力の向上を図ります。最終的には、自身の主張をレポートにまとめます。								
関連する科目	事前に「子ども教育入門ゼミ」「子ども教育プレゼミ」を受講しておくこと。履修後は「子ども教育専門ゼミⅡ」「卒業研究」を受講すること。								
授業の進め方 と方法	毎回の授業において、演習形式の授業を行います。1回の授業構成は次のとおりです。 授業の前半では、各自が、課題に対する自身の考えを資料およびプレゼンテーションにより表現します。 【知識・理解の獲得】 後半ではグループディスカッション等にて、前半の学びを深め、さらに自身の問題意識とその立場について検討します。 【汎用的技能の育成】【態度・志向性の育成】 講義資料の提示・課題の提出は、ユニバのクラスプロファイル上で行います。								
授業計画 【第1回】	子ども教育専門ゼミⅠの目的 本ゼミが大学での学びにおいてどのような位置づけにあるのか、確認します。								
授業計画 【第2回】	自身の興味・関心、問題意識を知る これまでに学んだ専門知識や経験をもとに、自身の関心や問題意識について考えます。								
授業計画 【第3回】	文献紹介 自身の関心や問題意識に関する文献を収集し、紹介します。								
授業計画 【第4回】	課題の設定 ①テーマの仮設定 自身の関心や問題意識をもとに、問いをたてます。								
授業計画 【第5回】	文献の内容及び構造を読む ①概略的な知識を得る 自身の問いに関する図書や論文を収集し、概略的な知識を得るとともに、論文の構造を分析します。								
授業計画 【第6回】	文献の内容及び構造を読む ②文献入手、構造の読み取り 自身の問いに関する図書や論文を収集し、概略的な知識を得るとともに、論文の構造を分析します。								
授業計画 【第7回】	文献の内容及び構造を読む ③構造の可視化 自身の問いに関する図書や論文を収集し、概略的な知識を得るとともに、論文の構造を分析します。								
授業計画 【第8回】	課題の設定 2: テーマの焦点化								
授業計画 【第9回】	研究計画を立てる（レジュメ作成、発表及び討論） これまでの学びをもとに、問いを焦点化し、研究計画を立てます。								
授業計画 【第10回】	先行研究を収集し、整理する ①体系的でまとまった情報収集 「広く調べること」と「論点を絞り込むこと」を繰り返し、自身の主張を明確にします。								

授業計画 【第11回】	先行研究を収集し、整理する ②資料の読み込み 「広く調べること」と「論点を絞り込むこと」を繰り返し、自身の主張を明確にします。
授業計画 【第12回】	調査・分析 ①構造の組み立て、アウトライン作成 調べた情報や自身の知識をもとに、レポートの構造を組み立て、執筆します。
授業計画 【第13回】	調査・分析 ②本文執筆 調べた情報や自身の知識をもとに、レポートの構造を組み立て、執筆します。
授業計画 【第14回】	最終報告 ①意見交換 レポートを資料として、プレゼンテーションにより自身の主張を表現します。 ディスカッションを通して、さらに論点を整理します。
授業計画 【第15回】	最終報告 ②まとめ レポートを資料として、プレゼンテーションにより自身の主張を表現します。 ディスカッションを通して、さらに論点を整理します。
授業の到達目標	1. 文献の内容及び構造を読み取ることができる。 2. 先行研究の収集とその整理の方法について理解することができる。 3. レジューメ作成、発表と討論の方法について理解することができる。 【知識・技能の育成】 4. 先行研究の収集と整理、調査と分析、レポート作成、発表及び討論を通し、自身の問題意識を深めることができる。 【汎用的技能の育成】【態度・志向性の育成】
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(4)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(5)
授業時間外学習【予習】	課題に取り組むにあたって、自身の興味・関心や問題意識に関する情報や資料等を収集しまとめるようにしてください。(1時間程度)
授業時間外学習【復習】	授業後には、意見交換や自身の学びを振り返り、論点を整理してください。(30分程度)
課題に対する フィードバック	毎回のレジューメについては、授業時にコメントします。最終レポートについては、評価後、返却し解説します。
評価方法・基準	学習への意欲的な取り組み(レジューメ作成の内容及び発表・討論への参加状況等) 50点 最終レポート 50点
テキスト	井下千以子『思考を鍛えるレポート・論文作成法 第3版』慶応義塾大学出版会、2019年。(1,200円＋税)
参考書	必要に応じて図書、資料を紹介します。
備考	

Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度	2026年度	開講キャンパス	都城キャンパス	開設学科	子ども教育学科					
科目名称	子ども教育専門ゼミⅠ					授業形態	演習			
科目コード	750114	単位数	2単位	配当学年		実務経験教員	○	アクティブ ラーニング	○	
担当教員名	山之内 幹								ICT活用	○
授業概要	実技を通して特別支援学校教育で必要と思われる基本的な教材・教具づくりの発想、技術を身に付ける。また前半は関する文献（英文を含む）の読み合わせを行う。また土日に課外授業（ボランティア講座、公開講座、他）を行う。									
関連する科目	特別支援教育に関する全科目（主に教育論・指導法）									
授業の進め方 と方法	実技と演習（個別指導あり）学外でのワークショップ（ポケットオルゴールの工作教室、ドーナツゲーム体験）への参加									
授業計画 【第1回】	オリエンテーション（年間計画の提示）									
授業計画 【第2回】	教具づくりに関する論文を読む1（和文）									
授業計画 【第3回】	教具づくりに関する論文を読む2（英文）									
授業計画 【第4回】	小さな積み木の制作1 角材を切る									
授業計画 【第5回】	小さな積み木の制作2 組み立て									
授業計画 【第6回】	小さな積み木の制作3 色塗り									
授業計画 【第7回】	ワークショップ1 ボランティア講座									
授業計画 【第8回】	積み木の制作4 仕上げ									
授業計画 【第9回】	ワークショップ2 公開講座									
授業計画 【第10回】	木登りアニマルの制作1 見取り図を描く									

授業計画 【第11回】	木登りアニマルの制作2 電動糸鋸で形を切る
授業計画 【第12回】	木登りアニマルの制作3 角を削り色をぬる
授業計画 【第13回】	ワークショップ3 工作教室（小学校）
授業計画 【第14回】	木登りアニマルの組み立て 仕上げ
授業計画 【第15回】	卒業研究発表会への参加
授業の到達目標	見取り図を描く、木を切る、削る、色を塗る等の制作に必要な基本的な技術を身につける
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(1)
授業時間外学習【予習】	作業進度が遅れている学生は空き時間を利用して制作する
授業時間外学習【復習】	各自で空き時間を利用して作業を進める
課題に対する フィードバック	レポートに対してはコメントを付して返す
評価方法・基準	技術習熟度50パーセント 意欲20パーセント 完成度20パーセント 態度10パーセント
テキスト	特別支援教育における教育実践の研究 批評社 2014年 山之内幹
参考書	必要に応じて論文等を渡す
備考	実技中心の講義 レポートは卒論の一部となる 制作は4年次も継続する また3年次の肢体不自由児教育論の模擬授業で作成した指導案及び制作した教材・教具も卒論に入れる

Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度	2026年度	開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科		子ども教育学科		
科目名称	子ども教育専門ゼミⅠ						授業形態		演習	
科目コード	750114	単位数	2単位	配当学年	3	実務経験教員			アクティブ ラーニング	○
担当教員名	遠藤 晃								ICT活 用	○
授業概要	世界的な取り組みとして注目されている「ESD(Education for Sustainable Development：持続可能な発展のための教育)」は、知識を持つだけでなく多様な知識を関連づけて活用し、ひとり一人が主体的且つ協働的に課題を解決していく力の育成を目指している。ESDの視点を持った自然を対象とするテーマ探求型の環境教育は、答えが1つに限らず、解決のプロセスも様々となるため、子ども達に、今求められる「確かな学力」を育む効果が期待される。このゼミナールでは、「なぜ？」をキーワードに、大学や地域の自然環境を対象としたフィールドワークに学生が主体的に取組み、ESDの視点を持った環境教育の指導に必要な調査・研究手法の習得を図る。また、データ解析、文献の引用法、まとめ、プレゼンテーションの方法についても確認する。									
関連する科目	子ども教育専門ゼミⅡ、入門ゼミ、プレゼミ									
授業の進め方 と方法	卒業研究に向けて、テーマに沿ったレジメを担当者が準備し、プレゼンをして、全員で議論をする。									
授業計画 【第1回】	第1回：オリエンテーション：大学での学び									
授業計画 【第2回】	第2回：課題設定：ESDや環境教育の現状と課題調査を行う(1)									
授業計画 【第3回】	第3回：課題設定：ESDや環境教育の現状と課題調査を行う(2)									
授業計画 【第4回】	第4回：報告と討論：ESDや環境教育の現状と課題について情報収集し報告する(1)									
授業計画 【第5回】	第5回：報告と討論：ESDや環境教育の現状と課題について情報収集し報告する(2)									
授業計画 【第6回】	第6回：報告と討論：ESDや環境教育の現状と課題について情報収集し報告する(3)									
授業計画 【第7回】	第7回：中間まとめ：これまで学んで来たことを整理して次の学びにつなげる									
授業計画 【第8回】	第8回：各自の問題関心の確認：卒業研究に向けて各自の関心を焦点化する									
授業計画 【第9回】	第9回：各自の問題関心に基づいた課題設定(1)：論文を読み、研究プランを構築する。									
授業計画 【第10回】	第10回：各自の問題関心に基づいた課題設定(2)：論文を読み、研究プランを構築する。									

授業計画 【第11回】	第11回：先行研究や基礎文献の収集：担当者が論文を紹介し、ゼミ生で議論する
授業計画 【第12回】	第12回：先行研究や基礎文献の整理：担当者が論文を紹介し、ゼミ生で議論する
授業計画 【第13回】	第13回：先行研究や基礎文献の整理：担当者が論文を紹介し、ゼミ生で議論する
授業計画 【第14回】	第14回：各自の課題に沿った報告と質疑応答：これまでの学びを整理して研究テーマを絞り、研究方法を整理する。
授業計画 【第15回】	第15回：卒業研究のテーマ及び研究方法をまとめ、プレゼンテーションをする
授業の到達目標	文献や資料を丁寧に読み、レジュメとして整理し、報告することについて一連の流れを身につける。また、2年次までに身に付けた文献の読み方、発表や討論の仕方、レポートのまとめ方等の力を生かし、事実即して自らの頭で考える力をつける。
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(5)
授業時間外学習【予習】	毎回の講義終了後に、講義内容を振り返り、内容に関連して自分が考えたことをまとめ、文章として表現するレポートを課す(1時間程度)。また、終了時に提示される課題について、次回の講義までに準備をしてくる(1時間程度)。課題については担当教員に随時相談すること。
授業時間外学習【復習】	毎回の講義終了後に、講義内容を振り返り、内容に関連して自分が考えたことをまとめ、文章として表現するレポートを課す(1時間程度)。また、終了時に提示される課題について、次回の講義までに準備をしてくる(1時間程度)。課題については担当教員に随時相談すること。
課題に対する フィードバック	課題については、ゼミの中で解説する。
評価方法・基準	討論や文献・情報収集への取り組み姿勢・態度およびレポートや報告の内容等で評価する。なお、レポートについては、講義内容をまとめた状態を最低限のレベルとし、理解に基づく活用、さらに応用といった、知識を基にして、様々なことと関連づけて思考・判断したことが表現できているかどうかを評価する。
テキスト	とくに定めず、必要に応じて資料を配布する。
参考書	
備考	

Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度	2026年度	開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科		子ども教育学科		
科目名称	子ども教育専門ゼミⅠ						授業形態		演習	
科目コード	750114	単位数	2単位	配当学年	3	実務経験教員		○	アクティブ ラーニング	○
担当教員名	川田 耕太郎								ICT活 用	
授業概要	本授業では、特別支援教育を専門的に研究していくための基礎的な力を養うことを目的とする。 文献や資料の収集や整理などの情報活用方法を学ぶ。また、研究テーマに沿った先行文献と出会い、要旨まとめや他者との意見交換を とおして、自分の意見を表現する力や聞く力の向上を図る。 学生が各自で課題を発見し、課題の解決に向けて、調査及び文献研究を進めながら探求する力を養う。									
関連する科目	事前に、子ども教育プレゼミを履修しておくこと。									
授業の進め方 と方法	基本的には演習形式で授業を展開する。前半は、各自の関心のある研究テーマに沿った先行文献等の要旨のまとめを行い、全体で発表 し、質疑応答を通して、多角的に考察する力を養う。									
授業計画 【第1回】	第1回 オリエンテーション 自己紹介及びゼミの進め方の確認									
授業計画 【第2回】	第2回 各自の研究テーマの確認 これまでの学びや経験から、自身の関心、より深く学びたい研究テーマについて発表する。									
授業計画 【第3回】	第3回 課題文献の検討 各自の研究テーマに沿った課題文献の検索や検討を行う。									
授業計画 【第4回】	第4回 文献の検討・課題の明確化 文献の要旨をまとめ、疑問に思うことや感じたこと、解決したい課題を明確にする。									
授業計画 【第5回】	第5回 文献の要旨・課題の発表 提示された文献の要旨と課題について話し合い、解決すべき課題を明確にする。									
授業計画 【第6回】	第6回 課題解決についての協議 課題解決に向けた方策を小グループで検討し、まとめる。									
授業計画 【第7回】	第7回 課題解決についての発表 それぞれでまとめた課題解決方法について発表し合い、意見交換を行う。									
授業計画 【第8回】	第8回 中間まとめ これまで行ってきたことの意義と今後の学習の見通しをもつ。									
授業計画 【第9回】	第9回 各自の研究テーマの確認 これまでの文献検討や学んできたことを振り返りつつ、より深く研究したいことを決定する。									
授業計画 【第10回】	第10回 各自の研究テーマに基づいた課題設定① 先行研究や先行文献の収集及び整理を行い課題を明確にする。									

授業計画 【第11回】	第11回 各自の研究テーマに基づいた課題設定② 課題を明確にし、その解決を図るための研究計画を立てる。
授業計画 【第12回】	第12回 情報の収集及び整理 先行研究や文献の情報を整理しつつ、自分の考えをまとめる。
授業計画 【第13回】	第13回 情報の収集及び整理・まとめ・文章化 先行研究や文献の情報を整理しつつ、自分の考えをまとめ、他者へ伝えるために文章化する。
授業計画 【第14回】	第14回 研究テーマに沿った報告 研究テーマに沿って課題や解決方法について発表し、質疑応答を行う。
授業計画 【第15回】	第15回 研究テーマに沿った報告 研究テーマに沿って課題や解決方法について発表し、質疑応答を行う。
授業の到達目標	1. 文献の内容についてその要旨をまとめ、他者に伝えることができる。 2. 他者の考えを聞いたり、自分の意見を話したりして、新たな考えをもつことができる。 3. 先行研究や文献、発表と質疑応答をとおして、自分なりの問いと新たな学びへの意欲をもつことができる。
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(5)
授業時間外学習【予習】	先行文献を熟読し、要旨の理解と他者へ伝えることができるようにする必要がある。また、興味関心のある研究テーマに出会えるよう、様々な文献等にふれることが求められる。
授業時間外学習【復習】	発表時の他者との意見交換、アドバイス等を踏まえ、研究テーマ、研究内容、研究方法等について改善することが必要である。
課題に対する フィードバック	提出課題は、授業時に評価・解説を行う。
評価方法・基準	文献・情報収集への取組や発表、意見交換などを総合的に評価する。
テキスト	必要に応じて、図書、資料などを紹介する。
参考書	特に使用しない。
備考	15年間、特別支援学校（知的障害、肢体不自由、病弱）、3年間、小学校に勤務。また、4年間、鹿児島県総合教育センター特別支援教育研修課において研究主事兼指導主事、4年間、鹿児島市教育委員会学校教育課において特別支援教育担当指導主事として勤務した。